

THE ROTARY CLUB OF CHOSHI

# 銚子ロータリークラブ会報

国際ロータリー第2790地区

創立 昭和32年3月23日

RI承認 昭和32年4月15日

会長 大里 忠 弘

副会長 宮内 榮

幹事 金島 弘

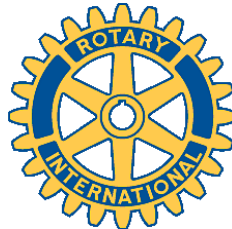
会計 金子 芳 則

2012～2013年度 RIテーマ

奉仕を通じて平和を

*Peace Through Service*

2012～2013 RI会長 田 中 作 次



例会日時 毎週水曜 12:30～

例会場 銚子商工会館5F大会議室

事務所 銚子市三軒町19-4

銚子商工会館内

電 話 0479-25-3111(会館)

0479-23-0750(専用)

ファクス 0479-25-8789

e-mail rotary@choshinet.or.jp

URL <http://www.tcs-net.ne.jp/~crc>

第2751号 (2013年3月27日発行)

## 今週のプログラム

『食を通じて地域に活性を』

お食事茶屋 膳

女将 長谷川政代様

## 前回の例会報告 (3月13日)

点鐘： 大里 忠 弘 会長

ロータリーソング：我等の生業

### 会長挨拶

今月は識字率向上月間です。日本では、読み書きができるということは当たり前のことのように思われています。しかし、地球上には読み書きができない人たちがたくさんいます。読み書きができなければ、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを余儀なくされますが、そればかりではなく、例えば、薬の飲み方が書いてあっても読むことができないので、どのように飲んだらいいのかわかりません。仕事ができず、貧しい。貧しいから読み書きができず仕事に就けない。この悪循環を断ち切る為にも、我々ロータリアンは支援の輪を広げていかなければなりません。

ところで、ご存知の方もおいででしょうが、江

戸時代、日本は世界でも群を抜いて識字率が高かったそうです。そのころの世界の文献に多々驚きと共に残されています。たとえば、イギリスの主な工業都市で20～25% (1837年) フランス 14% (1793年) ソ連・モスクワ 20% (1920年) に対し江戸 (1850年ごろ) では、70～86%だったそうです。幕末の識字率は江戸では、男子が79%、女子が21%農村の僻地でも20%武士についてはほぼ100%でした。そもそも、就学率も高く、同じく嘉永年間 (1850年ころ) の江戸の就学率は非常に高く、ごく一般の子供でも手習いへ行かない子供は男女ともほとんどいなかったといえます。また、日本橋、赤坂、本郷などの地域では、男子よりも女子の修学数の方が多かったという記録もあるそうです。

もちろん、当時の学校 (寺子屋) は義務教育ではありませんでした。寺子屋制度は、庶民自身から自発的に自然発生した世界的にも稀なものだ



第2790地区

ガバナー 得 居 仁 (松戸東RC)

会報委員

大岩將道、坂本尚史、越川信一

ったようで、当時の日本は、重要なことは役所や国がやるべきだなどという発想はなく、自分にとって重要であるならば、自分たちで自治的に運営するのが当たり前という感覚を持っていたというのです。だからこそ、ほかのアジア諸国とは違って日本だけが、開国時、西欧文明を受け入れても欧米列強に吸収されることなく近代国家を建設することができたのではないのでしょうか。

### 会員の記念日

◇ 結婚記念日おめでとうございます。

猿田正城 会員（3月10日）

### 幹事報告

1. 週報拝受 佐原RC、八日市場RC
2. RYLAセミナー第6回実行委員会開催の御案内 ……ガバナー事務所
3. 広報啓発誌「ニュースレター」第88号 公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター ……ガバナー事務所
4. 2012-13年度会長賞に関するお知らせ ……ガバナー事務所
5. ハイライトよねやま 156 ……(財)ロータリーよねやま記念奨学会
6. 春季例祭の御案内、米山梅吉記念館 館報VOL.21 拝受 ……米山梅吉記念館
7. 平成25年春の全国交通安全運動実施計画説明会の開催について ……銚子市交通安全都市推進協議会

### 例会変更

小見川RC：3月20日（水） 休会（春分の日）  
4月3日（水） 休会・4月5日（金）鹿島臨海RCとの合同例会  
佐原RC：4月11日（木） 夜間移動例会  
5月23日（木）→5月19日（日）20日（月）  
移動例会（静岡研修旅行）へ振替

### <卓話>

#### 《 ライラに参加して 》

#### 松本恭一 会員



3月1～3日、2泊3日で鴨川青年の家を舞台にシニアRYLAが行われました。

私は実行委員の立場での参加ですが、市内より2名（上野君、宮内君）の参加者があり、実のある体験をされ戻ってきました。

二人を見ていて感じたことは、素直な青年はこのような機会を与えてあげると非常に伸びるということです。もちろんこれは学校の役割でもあり、しかし卒業後は社会の役割、又は会社での経営者の役割ではないかと思えます。

帰りの車の中では、「もう少し期間が長くてもよかったです。」「ウォークラリーでの体験を職場で生かすにはどうすればよいだろうか。」など非常に前向きな意見が飛び交っていました。二人の今後の地域、職場での活躍を期待します。

私にとっても、意欲的な青年たちから刺激をもたらした貴重な3日間でした。



## 《 ライラセミナーの感想 》

銚子通運(株)

宮内 陸海様



出発前は不安としか言いようがありませんでした。初めて会う方達と仲良くなれるかどうか分からないまま鴨川青年の家を訪れました。

その日の予定はまず、寝室の場所について案内されました。部屋に

入ってくると簡単な自己紹介とこれからどんな事をするのかなど話しました。

講習が始まると、ユニット（各グループ）毎に分かれての話し合いをしました。

ここでは、まだ顔を会わせていない方との自己紹介やどんな職業なのか、それと軽い雑談のようなもので会話を弾ませました。グループ毎に話し合いの仕方は違うと思いますが、

私達のユニットではまず何について話し合うかという題材を決め、それについて各々が意見を重ねていく事で良い方向に話がまとまっていきました。この時私の中から「不安」という気持は無くなっていったと思います。

2日目については「歩行ラリー」これがメインになっていたように思います。

1日目の話し合いで皆さんの心の壁と言いますか、それはある程度無くなったとは思いますがまだまだ仲が良くなったとまではいかないと思います。

この歩行ラリーはグループ毎に更に細かく分かれて話し合いをしました。自分達は何も聞かされていない訳ですから、何を話し合えばいいのかすら分かりません。「迷ったらわかる所まで引き返す」、「配布されるコマ図をよく見る」など基本的な所は押さえる形で話はまとまりましたが、いざやってみるとこれが中々うまくいかないもので「これはバス停のマークだ」などと勝手に思い込み、同じ所を何週もしていました。他のグループではコマ図に散りばめられたヒントを見抜いているグループもあり、「何事も注意深くしていれば見えてくるものもある」という事がわかりま

した。

もうひとつ大事な事は、「誰か1人が中心となるのではなく、個々の考えを尊重しひとつの目標に向かっていく事」の大切さです。中心となる方ももちろん必要なのですが、それぞれが自分自身の意見を持っている訳です。

それをまとめる事でより良い方向に持っていく事が何より大事だとわかりました。

3日目は前日の歩行ラリーの反省点を踏まえ、対策研究が行われました。どこがどう悪かったのかを良く考え今回の歩行ラリーにどう生かすかなどを話し合いました。

そして臨んだ2回目の歩行ラリーですが前日とはうって変わって非常にスムーズに進める事が出来ました。前日最下位だった組の方が上位に食い込むなど、やはり反省と対策はとても重要な事なのだ改めて再認識する事が出来ました。

参加した方達には、とても感謝しています。皆さんから学ばせて頂いたことや今の自分の気持はとても言葉では表現できません。別れ際には、「もう少し一緒に居たかった」と心の底から思いました。皆気持は同じだと思います。

この貴重で有意義な時間を皆さんと共に過ごせた事は、私の心にいつまでも残り続けると思います。そしてこれからはこの経験を生かした生き方をしていきたいと思います。

## 《 第36回シニアRYLAセミナー 》

さざんか園小畑デイサービスセンター  
上野 翼様



このセミナーに参加することが決まってから、当日までの間は、初めて会う方々と3日間、寝食を共にするという事で、とても緊張していたことが思い出されます。

様々な講演や研修がありましたが、その中でも特に印象深かったウォークラリーについてお話したいと思います。

初日はウォークラリーを行う為のチームの振

り分けがありました、ここでは初めて顔を合わす方々と、自己紹介を通じ、相手を知り、尚且つ自分をしっかり伝えるということが出来たのではないかと思います。

ここではチームの中で、自らの立ち位置や役割について何が出来るだろうと考えることの大切さを改めて感じる事が出来ました。

2日目はまずラリー開始にあたり情報がまったくない状況で作戦会議を行いました。予期せぬ事態の想定や注意すべき点、目標に向けての手順や手段をペア及びチームで決定し、各々がチームでの決定事項を守りあきらめずにゴールすることを念頭に置き出発しました。

その中で一緒に行動するペアの方との協力や連携は必要不可欠でしたし、お互いに助けあいつつの物事に向かうという思いで実施できたと思います。またラリー自体はペアで行動するのですが、ペアの結果がチームにもたらす影響、チームとして連携することも自然に考えることができたと思います。

ラリー終了後はペアやチームでラリーを振り返り、反省と検証を行いました。まずは大事な情報源であるコマ図を改めて細かく分析しひとつひとつ答えを出し、次に個人の見落としや確認不足であった点を再度検証し明日へつなげる事が出来るように話し合いをしていきました。初回の率直な感想としては、協力をして一つの物事を達成する喜びと、楽しさ、また間違えた点を反省することは勿論のこと、間違えずに出来たことこそを振り返ることが重要ということが学びました。

最終日は前日の注意点や見落としがちな事項を事前に分析することで同じ失敗を2度しないという事を重点に出発することになりました。ラリーが始まると不思議と前日には考えられなかった、ペアの方への必要な配慮や様々なところへ気を配り、ヒントや見落としがないように心掛けるようになっていました。

これは日常の業務の中でもいえることだと思うのですが、仕事で何かを成し遂げるといふ為には、周りの方々の協力無しには成し遂げられません、協力や連携をする為にはまず信頼関係が必要ですし、適材適所といったようにそれぞれの得意分野を活かす体制作りも必要です。そういった条件を整えてこそしっかりとした高い目標に到達できるのだと思いました。

最後に、今回のセミナーでは初めて会う方々と

新しい交流の輪を広げることが出来、人と人との出会いの大切さを教えていただきました。本当に有難う御座います。

また今回のラリーのように1つの物事に対して向うとき、決して一人が担うということではなく関わっている皆で協力し、精一杯出来る役割を担って努力するということがよい結果をもたらすことになる。という基本的なことですがとても大切なことを改めて再確認できたと思います。そして今後、《職業奉仕について》で教えて頂いた、《4つのテスト》を活かし、介護の仕事という中、お年寄りのために職員一人一人が自分に何が出来ののかを考え、常に努力し困難な課題にも丁寧に向き合って解決できるように取り組むという、意識を持った職場作りに今回の経験を活かすことが出来るように励んで参ります。

## 【出席報告】

会員総数 40名 出席計算 37名

出席：30名 欠席7名 出席率 81.08%

欠席：有村君・阿天坊君・石川君・栢尾君・越川君・大岩君・島田君

## 【M U】

佐藤君・信太君・高木君 (3/12 銚子東RC)

杉山君 (3/7 京都モーニングRC)

☞ 地区研修セミナー (3/9)

織田君・島田君

☞ RACリーダーシップフォーラム (3/10)

島田君・内田君

## 【ニコニコ】

ニコニコBOX	¥ 2,000	計	¥ 376,930
スモールコイン	¥ -	計	¥ 45,191
米山BOX	¥ 3,050	計	¥ 46,624

## 次回のプログラム (4月3日)

『IMに参加して』

坂本尚史 会員

高瀬幸雄 会員

お弁当：フランケット (洋食)